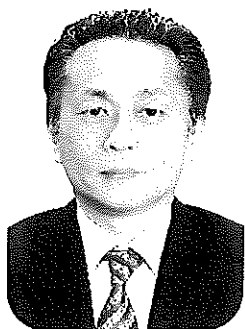


令和2年度を振り返って

栃木県中学校長会長
宇都宮市立一条中学校長
初谷 憲一



未だかつて経験したことのない一年間でした。新型コロナウイルスが世界中に広がり、たくさんの感染者が出るという、憂うべき事態に至りました。令和2年4月、学校に生徒の姿はなく、入学式場には新入生のみが前後の間隔を大きくとるなど、簡略化した式典で終わりました。その後、臨時休業は続き、分散登校等の措置をとりつつ、各学校では工夫を凝らした学習材を作成、配付するなどして生徒の学力保障への対策にも腐心したところです。このような状況から、GIGAスクール構想が急展開し、オンライン学習のための環境整備が進められることになりました。年度内に全小中学校児童生徒へタブレット配付が予定されておりますが、諸手を挙げて喜んでみられません。教員の情報機器活用力の向上や各家庭におけるインターネット接続環境の充実が今後の重要な課題となります。

そして、全校生徒が学校に揃ったのがようやく6月。しかし、安心な日々とは言い難く、校内で3密を避けるための指導、教員はマスクやフェイスシールドを着用しての授業の日々が続きました。令和3年度からの新学習指導要領の完全実施に向けて諸準備を整えつつあるところ、新たに生徒の安全確保として学校内外でのさまざまな対応が加わりました。管理者としての学校長には、学校における感染対策

の徹底という重い使命が課せられました。さて、そのような中、県校長会といたしまして、県内中学校長が足並みを揃えて難局を乗り越えていく機運は高まりつつも、感染状況を考慮し、4月の理事研修会、5月の総会の開催は見送り、書面決議という方法で意思統一を図らせていただきました。また、9月に実施予定でした研究大会も中止となり、芳賀地区、佐野地区の研究成果を誌面発表という形でまとめていただきました。さらには、全日中和歌山大会、関地区中神奈川大会も中止となりましたが、神奈川大会に向けては那須地区が研究成果をまとめていただきました。

共に顔を合わせて研修する機会が少なく残念ではありましたが、11月11日には念願の本県中学校長会HPが開設いたしました。これにより、中学校教育に関する最新の情報入手が可能となり、大いに事務の効率化が図られるとともに、様々な方面から本県中学校長会の活動をご理解いただけることになり、本県中学校、義務教育学校の教育がますます活性化されることが期待できます。

予測困難な時代と言われますが、想定外のことが起きることを常に覚悟の上、それに臨機応変に対応することの大切さを実感した一年間でした。思うようなことができなかった歯がゆさは残りますが、会員の皆様に支えられここまでたどり着けました。皆様方に心から敬意を表し、感謝申し上げます。Withコロナの生活はまだ続きそうですが、県中学校長会からは明るいニュースがたくさん発信されますことを心よりお祈り申し上げます。

緒等の在り方について再考させられる一年間でした。そうした中、少しでも本会活動の効率化を図るべく、11月には本会のHPを開設したところです。充実した内容にはまだほど遠い状況ですが、会議等の連絡や様々な情報を掲載していきたいと思っております。会員の皆様からご助言をいただき、充実したHPとなるよう努めてまいります。また、本会中学校教育75年記念事業に向け、記念誌の編集作業が始動いたしましたことをご報告いたします。

(事務局長 半田 均・事務局員 石川 昌子)

事務局だより

会員の皆様は、年度当初より新型コロナウイルス感染症への対応で、経験したことのないような1年間であったと存じます。特に、これまで各学校で大切にしてきた生徒たちの多様な活動が中止・縮小となる中、生徒の人格形成のため、指導の工夫に努められる一方、多くの困難が伴うことも理事会等での意見交換を通して実感いたしました。

事務局においても、会員の皆様への情報提供や連

県教委との教育懇談会

総務部長 増山孝之
(宇都宮市立若松原中学校長)

日時：7月13日 場所：栃木県庁研修館

今年度は、感染症対策のため、小学校長会5名、中学校長会4名、県教委は中村教育次長様はじめ5名の出席で、県教委の回答も後日書面で頂きました。

【中学校長会提案事項】主な内容とその骨子

1 教職員人材確保と教職員配置の改善

- (1) 正式採用教員の確保（欠補の段階的解消、臨時的任用経験期間を考慮した特別選考の検討）
- (2) 免外及び臨免対応解消のための会計年度任用職員の増員・配置
- (3) 学力向上、生徒指導、不登校対応加配の拡充
- (4) 特別支援学級担当教員の育成と正式採用教員の配置の推進、並びに教員の配当基準の見直し
- (5) 個別支援充実のための会計年度任用職員増員
- (6) 通級指導教室担当教員の増員
- (7) スクールカウンセラーの勤務日拡充と資質向上

2 確かな学びを育む教育の充実

- (1) オンライン学習等の推進による教育の機会の拡充
- (2) GIGAスクールの推進と一人一台端末の早

期実現

3 学校の働き方改革推進のための環境整備

- (1) 実現に向けた専門能力スタッフ、及び事務負担軽減のためのスクール・サポート・スタッフの配置の促進

4 アレルギー対応のための学校栄養職員の適正配置

- (1) 栄養職員の配置基準の引き下げ、及び食物アレルギー対応の充実を期した栄養職員の配置増

5 新型コロナウイルス感染症対策への支援

- (1) 学びの保障に向けた市町と連携した支援
- (2) 県立高入学者選抜の出題範囲等に関する配慮

6 運動部・文化部活動の在り方に関する方針に基づく取組の推進

- (1) 運動・文化部活動指導員の増員と人材確保

7 その他

- (1) 教職員評価制度の検証
- (2) 地域連携教員の専任化
- (3) 教職員の資質向上のための研修等に係る出張旅費の確保
- (4) 再任用制度の充実と再雇用の場の確保、改善

県教委からは、国への要望や可能な限り努力する旨の回答がありました。GIGAスクールについて、学校としての取り組みにも期待する旨ご指導がありました。

県教委・高等学校長会との懇談会

進路対策部長 君島孝典
(大田原市立湯津上中学校長)

令和2年10月16日(金)、栃木県教育会館において県教委、県高等学校長会と県中学校長会との懇談会を開催し、①一日体験学習、②出願手続き、③入学者選抜方法等について、新規あるいはこれまでも要望してきたものを中心に、中学校長会から県教委、高校側に改善要望をするとともに、協議や情報交換を行いました。

主な回答は以下のとおりです。

1 一日体験学習の中止を受けて

- (1) 各高校のホームページに「Web一日体験学習覧」を新設し情報を提供するようにした。高校紹介のDVDを作成し配付した高校もある。
- (2) 要望に応じて、各中学校に出向いて説明会を実施している高校もある。
- (3) Webでの申し込みについては、引き続き検討していきたい。

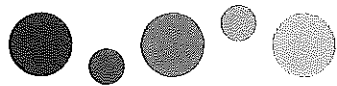
2 出願手続きについて

- (1) インターネット出願については、いずれ導入することにはなるだろうが、その時期等については未定である。
- (2) 出願の受理時間の短縮については各高校とも努力しているが、慎重さも必要であることから、ある程度の時間は容赦いただきたい。
- (3) 特色選抜の願書と志願理由書の印は、本人の同一性の確認のため今年度も依頼したが今後については検討したい。

3 入学者選抜方法について

- (1) 特色選抜導入後7年が経過する。成果や課題を踏まえ、制度について研究を続けていく。
- (2) 新型コロナウイルスへの対応については、感染状況を踏まえながら検討し連絡する。
- (3) 3月22日を特別の選抜の実施日とし、定員以外の若干名の合格者を考えている。

他にも様々な協議が行われました。詳細は地区校長会等とおしてお伝えしていきます。



地区校長会だより



芳賀郡市中学校長会

芳賀地区は、栃木県の南東部、茨城県に接する位置にあり、真岡市、益子町、茂木町、市貝町、芳賀町の一市四町から構成されています。芳賀郡市中学校長会は、中学校15校が一堂に会し、年間6回の研修会を実施し、各校の特色ある教育活動を共有するなど、教育実践の工夫、改善に努めています。

残念ながら今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止による臨時休業で、どの学校もその対応一色の年度始めとなり、郡市中学校長会では外部講師を招聘する研修はすべて中止となりました。しかし、定例会議研修会では感染予防対策や、学力の保障等について、慎重に何度も意見交換ができました。臨時校長会においても、現状の確認やさらなる情報収集に努めることができ、自校の各種行事や、授業形態、放課後活動等は、多面的、多角的な中学校長会での協議が、大いにその後の判断の拠り所となりました。

予測困難なこの時期ゆえに一層、15校が一枚岩となって連携し、芳賀地区としての学校運営を進めることができました。

また、今年度は研究主題「資質・能力の三つの柱に基づく確かな学力の育成」の下、来年度からの新学習指導要領の趣旨を生かした指導の工夫について研究を深めました。具体的には、(1)「知識・技能の習得」として、家庭学習の充実と家庭への啓発、例えば、家庭学習強調週間の実施、英語科では「Small Talk」等、意欲を高めるコミュニケーションの場の設定、(2)「思考・判断・表現力の育成」では、思考ツールの活用、書く活動の重点対策等。(3)「学びに向かう力、人間性の涵養」のアプローチでは、主体的な学習に向けた「授業あたりまえ10箇条」、ICT活用の教材作成といった各校の様々な取組を共有でき、大変参考になりました。今後も、温かく開かれた雰囲気と強い絆で、芳賀郡市中学校長会を全員で盛り立てていきたいと考えています。

[真岡市立大内中学校長 根本 美紀]

塩谷南那須地区中学校長会

本中学校長会は、塩谷地区、南那須地区それぞれの中学校長会を平成29年度に統合し結成されました。3市3町の12校で構成され、今年度4年目となる本会は、生徒数1000人を超える学校あり小規模ながらもアットホームな学校ありと規模は様々ですが、保護者や地域の方々に支えられ各校とも特色ある教育活動を展開しています。

本会は、塩谷南那須地区中学校教育の振興を期することを目的として、中学校教育に関する調査研究、運営に関する連絡協議、教育振興に関する対策活動等の事業を中心とし、年6回の研修会を実施しています。今年度は研究協議を「新たな学びを展開する指導力を身に付けるための職員研修のあり方」とし、新学習指導要領全面実施に向けた特色ある教育課程の編成・実施や開かれた学校づくりを目指した学校経営の在り方など、今日的な課題に目を向けながら、職員研修を通して職員の資質・能力の向上を

図る方策を探っています。

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で学校行事や諸活動が「例年どおり」といえない状況となりました。行事等の企画・運営に携わる教職員にとっても、実施の可否を最終決断する管理職にとってもともに悩み多き日々が続いています。最近ではピンチをチャンスに変え創意工夫を凝らした、特色ある教育活動を展開している学校の情報も聞かれるようになりましたが、コロナ禍における学校運営はまさに今日的な課題であり、本会では、その解決を図る取組も重要事項であると捉えています。

2地区の中学校長会が統合したまだ新しい会ですが、目指すところは全日中校長会や県中学校長会と同じであることを押さえながら、一方では地区校長会としての視点でネットワークの軽さを生かし、会員の忌憚のない声を大切にする「我が校長会」として、充実した運営を目指して取り組んでいきたいと考えております。

[那須烏山市立烏山中学校長 内藤 雅伸]

那須地区中学校長会

那須地区中学校長会は、大田原市中学校8校、那須町中学校2校、那須塩原市中学校9校と義務教育学校1校の計20校で構成されています。毎年、4月の総会、8月の塩原宿泊の研修会、11月の小中合同の塩原宿泊の研修会を行っています。研修会は、全員がテーマについて自分の学校における校長としての取組を紹介したり、グループ別協議で情報交換したりするなどして、実際の学校経営に生きる研修になるように工夫しています。

代々の校長会長からは、「宿泊をして、那須地区の中学校長全員が酒を酌み交わしながら腹を割って話し合うことが大切だ」と言われており、特に夏の研修会は本地区の目玉です。昨年度は、塩原に通じる道路でトンネル事故が発生、通行止めになり、研修会が実施できないかと思われましたが、それぞれが、矢板経由、日光経由等、四苦八苦して会場に向かい、予定時刻の40分後には20人全員が研修会場に

到着しました。いざというときにすぐ対応できることは、校長としてとても大切なことだと感じました。

那須地区としては、昨年度から研究を進めてきた内容を、今年の関プロ神奈川大会第8分科会で「働き方改革を通じた魅力ある学校づくり」と題して発表するはずでしたが、コロナ感染症予防のために中止となり、紙上発表を行いました。

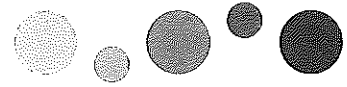
また、今年は、同様の理由で那須地区伝統の研修会も開催できないことが残念です。その代わり6月に、修学旅行や、総体の代替試合の実施の有無等について校長会を開催し、具体的に意見交換を行いました。毎年何気なく実施している学校行事や大会等について、今年ほどその実施の意義を考えたことはなかったと思います。

これからも20人の校長が心をつなげて、那須地区の中学生の健康・安全・成長のために取り組んでいきたいと考えています。

[那須塩原市立塩原小中学校長 丑越 薫]



私の学校経営



へき地小規模校の良さを生かした取組

日光市立湯西川中学校長 芳賀 智 一
本校は、日光市の北部にあるへき地1級校です。児童数10名、生徒数11名、県費職員17名の小さな学校です。昨年度から日光市より小中一貫校の指定を受けました。

「子どもが主人公」「へき地教育」「地域とともに」の3つのキーワードを次の8つの取組で進めています。「授業改善」「学校行事改善」「学級活動改善」「アイデアと工夫」「『ふるさと』のテーマ化」「地域での活動の場の設定」「地域でのソーシャルスキルの育成」「情報発信」の8つです。進め方は「協働体制」を意識し、職員も児童生徒も話し合うことを大切にしようと働きかけています。

4月1日には、「1年後の子どもたちに望む姿」と「教職員がすべきこと」を調理員さんなど市職員も交え、意見交換をしました。「自分の意識に変え行動できる子ども」を望む姿に、教職員は「個人や集団に対して子どもが自ら行うための支援をする」に集約しました。キーワードの取組を紹介します。

「子どもが主人公」では、学校行事を子ども達が

そのねらいを意識するように、授業同様に各学級で「めあて」を示し、その達成を目指して活動しています。

「へき地教育」では、小中一貫校の良さをいかし、中学校職員の小学校へ出授業や校務分掌の一本化を進めています。

「地域とともに」では、本校のPTAは保護者と地域住民と職員で組織しています。会員数は110名を超え

ています。8月末に保護者会を持ち、コロナ感染者が出た時に備えて「だいじょうぶ みんなで 守るよ」というスローガンを決め、地域のPTA全戸にA3版のリーフレットを作成・配布しました。

もっともっとアイデアを出し、みんなで工夫していけるように取り組んでいきたいと思っています。



学習指導要領完全実施前年度

栃木市立大平中学校長 中山 観

「社会的事象を倫理・哲学・宗教・政治・法・経済等に関わる多様な概念や理論に着目して捉え、よりよい社会構築や人間としての在り方・生き方についての自覚を深めるために、……概念・理論などと関連付ける。」この文章にシビれています。こんな力を身に付けた高校生が育つように中学校教育を丁寧にしなればと、素直に思います。

しかし、コロナ禍もあり、なかなか思い通りには進みません。言うまでもなく先生方は多忙の中にいます。近頃は、毎日実施している校舎や部活関係の消毒もあり疲弊気味で、次年度完全実施までなかなか視野に入らない様子です。

そこで教員一人一人に直接働きかけてみようと考えました。廊下ですれ違う教員に「資質・能力って何？」などと質問。初めは付き合ってくれましたが、「見方・考え方」に話が及ぶ頃には、私の姿を見るとどこかに行ってしまう。これがだめならレポー

ト提出です。資質・能力、見方・考え方とは何ですか？小・中・高でどう接続しますか？話題の授業改善の視点それぞれについて、どんな留意点や問題意識がありますか？学習評価の主な改善点は何ですか？「学びに向かう力・人間性等」の評価の留意点は何ですか？我ながら恐縮であります。

直接生徒に話をする形をとりながら、先生方に間接的に気付いてもらおうとも考えます。チャンスは放送による講話です。学校では授業を中心に、見方・考え方を働かせた自己形成が大切です。そのためには、本当のことが言えて、聴き合えて、話し合える集団になること、自ら考え正しく判断し行動する力を発揮することが大切です、などと当たり前のことを力説します。

単元や内容のまとまりを見通して行う課題解決的な学習は、教員・生徒双方にとって高度なものと思います。職員の「資質・能力」向上と、指導と評価の一体化を踏まえた年計作成が、組織的になされることを祈るばかりです。

コロナ禍での教育活動

佐野市立北中学校長 野 城 久 雄

今年度本校に赴任し、放送による始業式で「止まない雨はありません。協力し合ってこの困難な状況乗り越えましょう。」と挨拶したのも束の間、その2日後から市内一斉臨時休業となってしまいました。幸い、始業式翌日の入学式は、体育館に新入生と担任のみが入場し、呼名認証をクラスごとに6回繰り返し、何とか実施することができました。

4月当初マスクが手に入らなかったため、休業期間中に職員用の布製マスクを作成したい旨の話が家庭科主任からありました。そこで、家の中で頑張っている子供たちにもマスクを作ってプレゼントできないものかと提案し、職員作業として約600枚の布製マスクを製作し、休業明けに全員に配付することができました。



職員作業でマスク製作

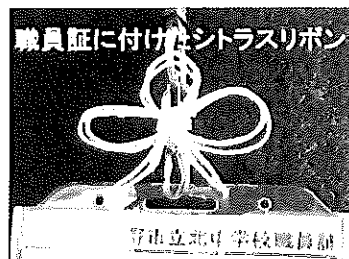
6月から学校が再開したものの、様々な行事の中止や規模縮小、授業時数確保のための7時間授業、さらに9月中旬にはPCR検査で本校生徒3名の陽

性が判明し、再び学校休業となりました。

コロナ対応によって当たり前だった日常が失われたことで、これまで意識していなかった日々の一つ一つの教育活動の意義に気付かされました。運動会の代替となるスポーツレクリエーション大会や修学旅行の代替となる校外学習で見せた子供たちの溢れんばかりの笑顔。学年別合唱コンクールの練習を通して深まったクラスの絆。そもそも学校は何のために存在し、子供たちに何を育てていくべきなのかを改めて考えるきっかけとなりました。

今回のコロナ禍という危機を、学校現場がより強くしなやかに成長するための機会と捉え、学校でしかできないことを

しっかりと実践し、教職員の職務に対する使命感や誇りを高めていきたいと思ひます。



職員証に付けたシトラスリボン
野市立北中学校職員証



マスクを着けたアマビエ

新任校長の一言

新任校長として

宇都宮市立瑞穂野中学校長 手塚 弘 幸

4月8日に始業式、9日に入学式を行い、その後5月末まで休校になりました。その間、生徒の学習をどう保障するか、家庭訪問はどうするか、いつ学校が再開できるのかなど不安な日々を過ごしました。

6月1日から授業が開始し、3密を避け、感染予防対策に苦慮しながら教育活動を再開させ



ました。それだけでなく初めての学校経営で右往左往しているのに、それにコロナ禍がおまけでついてきました。しかし、どの年度にも新たな課題があり、それを先輩校長先生方はクリアしてきたのだと思い、現状を悲観せず覚悟を決めて頑張ってきました。

さて、4月の着任時に、本校の学校目標を追加変更しました。今までの学校目標は「強く 賢く 明るく 親切に」でしたが、新たに「拓く」を加え、

「強く 賢く 明るく 拓く」としました。令和3年度から中学校では新学習指導要領が全面実施されます。その中でこれからの教育理念として、「新しい時代に必要となる資質・能力の育成と学習評価の充実」や「社会に開かれた教育課程」などが掲げられています。令和の時代に必要な資質能力とは、「知・徳・体」の他に、「社会や世界に向き合い関わり合い、自分の人生を切り拓いていく未来を拓く力」が求められており、目指す生徒像に不可欠と考えました。

創立以来73年間変わらなかった学校目標の変更にはどんな反響がでるか、自分としてはドキドキでしたが、無事に教職員、PTA、地域共に賛同を得ることができました。また、このコロナ禍の中、先の見えない状況で、「未開の地を切り拓いていく」という方向性は、時代に偶然合っていたのかもしれない。

そもそも学校経営に一番重要な学校目標は、変わらないものでなく、例えば10年ごとの学習指導要領改定に合わせて、見直すべきだというのが持論ですがどうでしょうか？

新任校長として

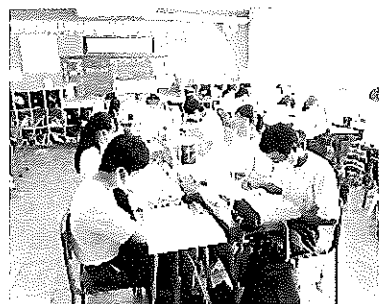
下野市立南河内第二中学校長 設 楽 孝 男

4月1日、辞令を交付され、校長として着任しました。本校勤務10年目になるので、特色ある学校づくり、小中一貫教育、学校運営協議会など学校教育について、校長としてどう経営していったら良いかいろいろと考えていました。しかし、待っていたのは、新型コロナウイルス感染症への対応に追われる日々でした。

入学式の持ち方からはじまり、臨時休業中の生徒との関わり、学習保障、休業明けの学校としての感染症防止の方策。一つ一つ洗い出して対応を決め、共通理解を図りました。

行事についても、実施可能かどうか検討しました。学校行事の教育的意義の高さは分かっているので、なるべく実施したいという思いもあり、とりあえず延期とした行事や、ぎりぎりまで中止の決断をできなかった行事もありました。難しい判断をしたとき、校長の決断の重さを改めて感じ、その責任をしっかりと受け止めなければならぬと思いました。そん

な中、近隣の中学校の校長先生と相談しながら計画を進めることができたのは、私にとって幸運でした。



10月は、体育祭・終業式（通信票の作成）・学校祭・修学旅行と信じられない忙しさでした。それでも、生徒たちが充実感や達成感を味わうことができ、実施して良かったと思います。生徒の笑顔は、何物にも代えがたいパワーを与えてくれました。

このような危機的状況をなんとかここまでやってこられたのは、教頭先生をはじめ教職員の協力があつたからだと思います。それぞれのキャリアに応じて、忌憚ない意見や感想を述べてくれ、何か決めるとき大きな判断材料となりました。学校は組織で動くもので、チームとして連携してことにあたる大切さを感じました。